

学位論文審査基準

理工学研究科

専攻名	学位論文審査基準
ソフトウェア工学専攻 データサイエンス専攻 電子情報工学専攻 機械システム工学専攻 (博士前期課程)	<p>[修士論文]</p> <p>修士論文は、専攻分野における精深な学識と研究能力とを証示するに足るものをもって合格とする。その判断基準は以下のとおりである。</p> <p>(1) 研究テーマが専攻分野との関連で適切なものであり、学術的、産業的意義を有している。</p> <p>(2) 新規性、独創性が認められる。</p> <p>(3) 理論的または実証的研究の成果を含んでいる。</p> <p>(4) 先行研究が適切に参照され、研究の位置付けが明確である。</p> <p>(5) 論文の体系性（全体としての主題を有すること）が認められる。</p> <p>(6) 専攻分野の研究能力または業務遂行に必要な専門性を示している。</p> <p>[特定課題研究]</p> <p>特定課題についての研究の成果は、高度の専門性を要する職業等に必要高度の学識や技術を有することを示すものをもって合格とする。ただし特定課題について、その目的と成果物の製作について記述した成果報告書を併せて提出すること。また共同制作である場合は各自の担当部分を明確にすること。審査委員会は修士論文と同様に構成され、成果報告書の内容を中心として、これに関連する学識や技術について総合的な審査を行う。その判定は以下の基準に基づいて行う。</p> <p>(課題の適切性)</p> <p>課題設定の目的が明確で、製作した成果物が高度の専門性を要する職業等における成果物相当と判断できること。</p> <p>(学識および技術)</p> <p>抽象的・一般的な視点から課題の本質を考察して適用する技術の比較検討を行い、高度の学識や技術が課題に対するアプローチおよび成果に反映されていること。</p> <p>(取組)</p> <p>成果物製作の取組によって高度の学識や技術が得られたと判断できること。</p> <p>(倫理性)</p> <p>人を対象とする研究などは研究審査委員会において、実施が承認されていること。</p>